IV－60　明治～昭和初期における仙台の目抜き通りの変遷

東北大学　学生員　○関　孝太朗
東北大学　正会員　　平野　勝也

1．はじめに

わが国の都市の中心商業地は，その多くが歴史を持っており，形成過程には様々な変遷が見られる．一般的には，佐藤[1]による旧城下町の変遷過程の研究にもあるように，旧街道沿いの中心商業地が現在の中心商業地となっていることが多い．しかし，仙台には，昔の街道筋の目抜き通り（国分町通り）と裏通り（東一番丁通り）が逆転したという，一般的には考えられない現象が発生した．これは，都市の発展史を考える上で重要な事例と考える．

そこで本研究では，国分町通りと東一番丁通りの表裏が逆転したという歴史的変遷を探り，その要因を明らかにすることを目的とする．

2．調査方法および結果

本研究では，二つの通りの変遷を追うため，主に文末に掲載した文献および資料を中心に調査し，また必要に応じてヒアリング調査を行った．

史料によって把握した事実とそこから読み取れる解釈を，明治から戦災復興期までの年代毎に以下に記述する．

（1）明治以前

藩政末期，国分町は市を開催する特権を与えられていたこともあって，東北一の繁華街として知られていた[3)4)]．

東一番丁は藩士のみが住む侍屋敷街であり，主に大藩士の大邸宅ばかりであった．しかし，一歩横丁に入ると薄暗くうっそうとした道であった．

東一番丁には商業のかけらも存在しない（図-1）．

（2）明治維新期

明治維新により仙台藩は大打撃を受けることとなった．市内の景気は沈滞し，人口も減少した．武士達はその職を失い，路頭に迷うものが大勢現れた．

その折，当時東一番丁に屋敷を構えていた山家豊三郎は，この状況を危惧し東一番丁を商店街に作り変えようと動きだす．まず，敷地の一部（玉沢横丁に面した部分）に十数戸の商店を建築し，また，人が集まるよう祭事を催したりした．この努力が実り，彼の屋敷を中心として商店街が徐々に南北に形成されて行った[2)]．

国分町は商業地区，東一番丁は新興の商業地区であったと考えられる（図-2）．

（3）明治中期　～鉄道による都市構造の変化～

明治20年暮れ，仙台に鉄道が開通する．鉄道開通前までは，人・物の流れは仙台の主要な交通路である奥州街道が中心であったが，駅の設置によって駅前から芭蕉の辻までの流れが活発となり，その南北から東西への人の流れが移り，街の構造を変化させていくことになる．

東一番丁はこの変化の波に乗り，また，山家の下地造りもあり，次々と新しい店舗が出店した．一方国分町は，明治27年に帝国生命仙台支店，明治32年に日本火災保険代理店，そして明治36年には，七十七銀行が芭蕉の辻東北角に移転し近代的な本社屋を建造するなど，国分町に業務関連の会社が相次いで進出を始めた．

鉄道により南北の流れが東西に移行した当時，仙台の人口はあまり増加していない．それにも関わらず東一番丁が商店街として発展し得たことは，これは筆者の推測に過ぎないが，芭蕉の辻から離れていた街道沿いの商店街が衰退したことを意味するものと思われる．即ち鉄道の開通を契機に，街の形が奥州街道を中心とするものから，駅から芭蕉の辻，東一番丁を中心とするものに大きく変わったことにより，街道沿いの商業地区の範囲が狭くなったと考えられる．

この時代，国分町は卸売業を中心とした商業と業務が混在し，東一番丁は商業地区としての装いを呈していたと考えられる．

（4）明治後期，大正，昭和初期　～分化の必然～

明治後期は，国分町はさらに業務系の会社が進出している．大正末年には国分町通りに面して銀行が立ち並んだ．昭和初期には老舗や卸屋がまだ店を構えていたが，人の流れは東一番丁と大町角の東へ移り，新伝馬町，名掛丁が賑やかになりつつあった[3)]．また，多くの老舗が東一番丁へ移っていったのもこの時期である．

昭和の初めに三越の仙台進出が計画されると，仙台商人はこぞって反対運動を始めた．しかし，結局昭和8年に出店することが決まると，これを機に仙台商人の士気は高まり，昭和7年には藤崎が近代的な店舗を築いた．

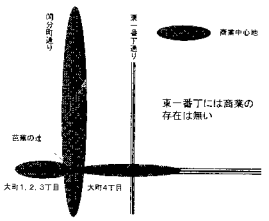

図-1　明治以前の様子

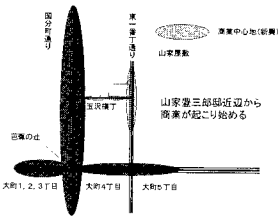

図-2　明治維新期の様子

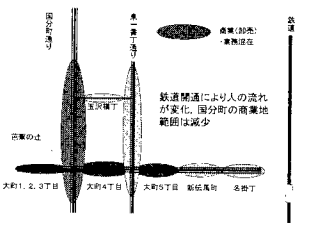

図-3　明治中期の様子

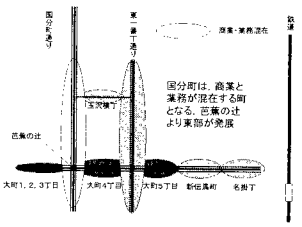

図-4　明治後期の様子

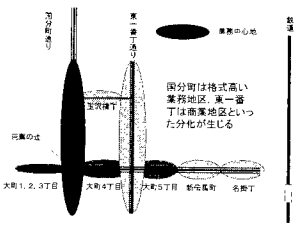

図-5　大正，昭和初期の様子

これにより，三越と藤崎の間のラインは一段と強固なものとなっていった[8]．

国分町は商業地としての賑わいは失われたが，芭蕉の辻周辺の様子は絵葉書にもなるほどの名所で[9]，仙台を代表する風格のある業務中心地区としての性格を強めた．東一番丁は商業の集積を高め，商業中心地区として発展した．国分町は決して廃れていったのではなく，市街の中心商業地の発展に伴って，機能が分化していった時代であると考えられる（図-4,5）．

（5）戦災復興土地区画整理事業の影響

空襲で焼け野原となった仙台市街は，戦災復興事業で東二番丁通り，青葉通り，広瀬通り，定禅寺通りといった主要街路が整備された[7]．しかし，業務中心地区であった国分町通りは拡幅されず，東一番丁通りは拡幅されて，中央通りと共に商業中心地区としての復興を遂げた．

国分町通りが戦後拡幅されなかったのは，昔ながらの道を残そうという動きがあったことなどによる．これにより国分町通りは，業務中心地区としての発展をも阻害され，目覚しい仙台の発展のなかでその機能を青葉通りに奪われて，裏通りになってしまったと考えられる．

3．おわりに

国分町通りと東一番丁通りの変遷は，商業と業務の機能が分化したという，繁華街の成長過程では自然の現象が生じていた．東一番丁通りが発展できたのは鉄道による要因が大きく，また戦前まで格式のあった国分町通りが裏通りになってしまったことについては，戦災復興事業が決定的要因であることが明らかになった．また，本研究より目抜き通りの新たな変遷を明らかにすることができた．

引用文献

1)　佐藤滋：城下町の近代都市づくり，鹿島出版会，1995
2)　柴田量平：仙臺・東一番丁物語，本の森，2001
3)　佐々久：仙台あちらこちら，宝文堂，1982
4)　伊東信雄：仙台郷土史の研究，宝文堂，1979
5)　あきんどの町編集委員会：あきんどの町，おおまち商店街振興組合，1983
6)　仙臺市史編纂委員会：仙臺市史 10 年表・書目・索引，仙臺市役所，1975
7)　仙台市開発局計画部都市計画課：仙台都市計画史，1988
8)　仙台商工会議所：仙台商工会議所百年史，1992
9)　粟野邦夫：芭蕉の辻，仙台なつかしクラブ，2001

参考文献

10)　仙臺市史編纂委員会：仙臺市史 1 本編 1，仙臺市役所，1974
11)　仙臺市史編纂委員会：仙臺市史 2 本編 2，仙臺市役所，1975
12)　仙台市史編纂委員会：仙台市史特別編 4 市民生活，仙台市役所，1997
13)　仙台市史編纂委員会：仙台市史資料編 5 近代現代 1 交通建設，仙台市役所，1999
14)　仙台市史編纂委員会：仙台市史資料編 6 近代現代 2 産業経済，仙台市役所，2001
15)　仙台市開発局：目で見る復興 まちの今昔，宝文堂，1983
16)　仙台市開発局：戦災復興余話，1980
17)　佐々久：郷土史辞典 宮城県，昌平社，1977
18)　吉岡一男：新・仙台の散策，宝文堂，1990
19)　三原良吉：仙台あのころこのころ八十八年，宝文堂，1978
20)　仙台のしにせ編纂委員会：仙台のしにせ，仙台商工会議所，1992
21)　番丁詳伝編集委員会：番丁詳伝，一・四・一，1987
22)　財団法人日本地図センター：地図で見る仙台の変遷，1998
23)　高倉淳：絵図・地図で見る仙台，今野印刷，1994
24)　仙台市歴史民俗資料館：大日本職業別明細図，1933
25)　平凡社：城下町古地図散歩 8 仙台 東北・北海道の城下町，1998
26)　今泉清：曲直問答実録，宝文堂 1987
27)　仙台市歴史民俗資料館：御譜代町の生業－職人と商人－上巻，1986
28)　仙台市歴史民俗資料館：御譜代町の生業－職人と商人－下巻，1987
29)　仙台市歴史民族資料館：いつか見た街・人・暮らし，1993
30)　粟野邦夫：辻票で歩く，仙台なつかしクラブ，2000
31)　仙台市博物館：市史せんだい Vol.1，1992
32)　角川書店：角川日本地名大辞典 4 宮城県，1979
33)　山田安彦，山崎謹哉：歴史のふるい都市群 3－東北地方太平洋側の都市－，大明堂，1989